

大鹿村中央構造線博物館たより



187号

2024 年 12 月発行

TEL:(0265)39-2205

か どう へい そ く こ ん せ き 河 道 閉 塞 の 痕 跡

先日、飯田市(旧南信濃村)の遠山川にて、^{か どう へい そ く}河道閉塞の痕跡を見る機会がありました。河道閉塞とは、山崩れなどにより土砂が川をせきとめ、上流側に水がたまる現象のことをいいます。天然ダム、土砂ダムなどと言われることもあります。

遠山川の木沢地区周辺では、近年、河床が低下しており、川底に埋もれていた木があちこちで姿を現しています(写真1)。これらの埋もれ木の年輪から枯れた年代を調べたところ、西暦714年ということがわかったそうです。古文書によると、714年には、遠江地震が発生したことが知られていることから、これらの埋もれ木は、遠江地震によって、山崩れが起きて、遠山川がせきとめられ、上流側に湖ができたことで、水没して枯死したのではないかと考えられています(*1)。近くには、湖の周辺で堆積したと思われる砂・シルトからなる地層も見られました(写真2)。



写真1 遠山川の埋没林(木沢地区)



写真2 湖に堆積したと思われる砂・シルト層

河道閉塞は、大きな地震や豪雨の時に、しばしば発生し、被害が出る場合があります。上流では湛水による家屋等の浸水被害が出る可能性があります。また、下流側では、万が一、急に決壊した場合には、せき止めていた土砂と大量の水が一気に流下し、洪水や土石流被害が起きることがあります(図1)。そのため、河道閉塞が発生を検知することは防災上重要です。最近では、令和6年能登半島地震の際に、国土交通省によって、6河川14箇所では河道閉塞が確認され、優先度の高い順から排水工事や監視体制の構築がなされました(*2)。

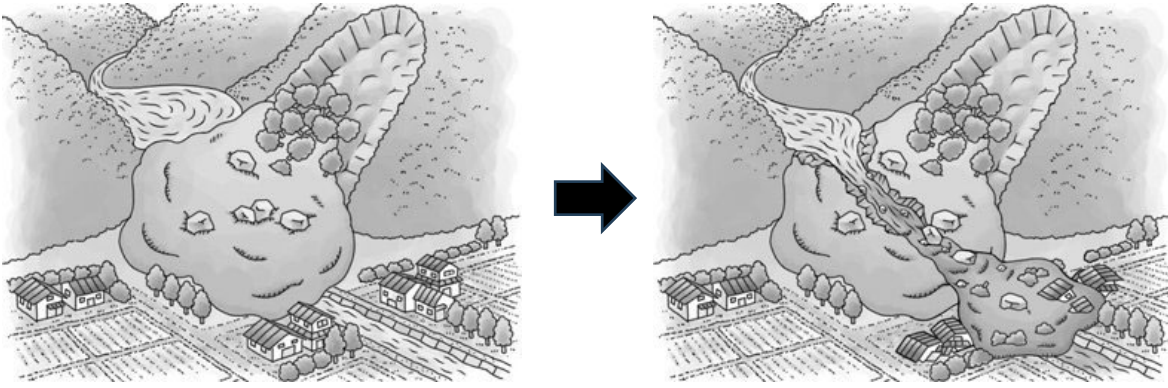


図1 河道閉塞の発生と決壊

資料提供 NPO 法人土砂災害防止広報センター

大鹿村でも、昭和36年の集中豪雨で大西山が崩れたときに、小渋川に河道閉塞が発生しましたが、20分後には決壊したそうです(*3)。また、入谷地区では、長年、大がかりな地すべり対策工事が行われてきましたが、これは、万が一、塩川に河道閉塞箇所ができた後、決壊すると、下流の大鹿村役場や周辺人家に甚大な被害が及ぶ危険があるため、河道閉塞を起こさないことを目的とした工事でした(*4)。(宮崎)

参考文献

(*1) 飯田市文化財保護情報サイト「遠山川の埋没林と埋没樹」参照

<https://www.city.iida.lg.jp/site/bunkazai/maibotsurin.html>

(*2) 国土交通省ホームページ「令和6年能登半島地震に伴う河道閉塞（土砂ダム）の発生と対策状況について」

https://www.mlit.go.jp/report/press/sabo01_hh_000161.html

(*3) 社団法人中部建設協会(2011)「想いおこす三六災害」参照

(*4) 令和4年度 第4回中部地方整備局事業評価監視委員会 開催結果 配布資料 入谷地区直轄地すべり対策事業 説明資料

https://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/jigyoku/data/r0412/100_shiryou10.pdf